

企画書

ファン・ゴッホの珠玉の作品を集めた「大ファン・ゴッホ展」(仮題)を福島で開催！

◇県誕生 150 周年、東日本大震災及び原発事故から 15 年の節目となる 2026 年と、その翌年の 2027 年に、福島県立美術館において、ファン・ゴッホ作品のコレクションで世界的に有名なクレラー・ミュラー美術館（オランダ）所蔵のファン・ゴッホ作品を中心とする「大ファン・ゴッホ展」(仮題)を 2 回にわたり開催いたします。

◇2005 年以來の来日となる「夜のカフェテラス」をメインとする第 1 回展覧会では、ファン・ゴッホがブラバント地方からアルルに移り住むまでの作品を展示し、弟のテオや友人に宛てた手紙の内容から、他のアーティストたちとの交流で得た芸術的な影響や作品制作におけるこだわりなどについて考察してまいります。

◇続く第 2 回展覧会では、オランダの国宝とも称され、かつて日本の美術教科書にもファン・ゴッホの代表作品として掲載されていた名画「アルルの跳ね橋」をメインとして、アルルからサン・レミ、オーヴェールに至るまでの作品を展示いたします。

◇多難な人生を歩んだファン・ゴッホは、芸術を通して「生き生きと力づけてくれるもの」を表現しようと試み、独自のスタイルを追い求め、画家として成長していきます。

◇本展覧会は、こうしたファン・ゴッホの代表作品に直接触れることにより、次の世代を担う子どもたちが本物の芸術に親しみ、新たな驚きや感動を体験できる機会とするとともに、福島県の多くの皆さんに元気や勇気を届け、未来に向かって進む原動力につなげてまいります。

◇また、本展覧会に訪れる国内外の多くの皆さんに、「復興の地ふくしま」に向けて挑戦を続ける本県の姿を広く発信し、風評の払拭や交流人口の拡大につなげてまいります。

◇さらに、今回の展覧会では、福島県立医科大学の発案により、世界的な名画を用いた臨床応用として、「アートセラピー」のさらなる発展を目指します。

開催概要

1 会期

第 1 回展覧会 「夜のカフェテラス」ほか 2026 年 2 月 21 日(土)～5 月 10 日(日)

第 2 回展覧会 「アルルの跳ね橋」ほか 2027 年 6 月 19 日(土)～9 月 26 日(日)

2 会場

福島県立美術館

(巡回場所として東京ほかを予定)

3 主催

大ファン・ゴッホ展実行委員会(仮)

【構成員】(予定)

福島県、福島県教育委員会、福島民報社、
公立大学法人福島県立医科大学、
福島テレビ、福島放送、テレビユー福島ほか

4 監修

クレラー・ミュラー美術館 ベンノ・テンペル館長

5 展示予定作品

各展覧会において、ファン・ゴッホ作品を中心に約 60~70 作品(全展示作品の約 70%がファン・ゴッホの作品)の展示を予定。

メインとなる「夜のカフェテラス」が日本で展示されるのは 2005 年以来約 20 年ぶり、「アルルの跳ね橋」は 1958 年以来、実に 70 年ぶりとなります。

6 関連事業

講演会などの関連事業、風評払拭や交流拡大に関するイベント等を実施予定。

※ クレラー・ミュラー美術館について

オランダ・ヘルダーラント州のデ・ホーヘ・フェルウェ国立公園内にある美術館で、1938 年、実業家クレラー・ミュラー夫妻のコレクションをもとに開設されました。

270 点以上に及ぶファン・ゴッホの作品を有し、その数はアムステルダムのごッホ美術館に次ぐ美術館であり、ゴッホ以外にも印象派から現代に至る絵画、彫刻の質の高いコレクションを誇ります。

※ アートセラピーについて

福島県立医科大学はこれまでフェルメールやゴッホなどの絵画におけるアートセラピーの融合を進めてきました。アートセラピーは現在、欧米をはじめ世界中のメディカルセンターで行われているメンタルヘルスにおける最新医療です。名画は、人の心に直接働きかけて感動や安らぎを与えるだけでなく、ストレスを取り除く効果があり、驚くべきことに身体的な症状をも改善することがはっきりと報告されています。

レンブラントやフェルメールの名画を所蔵するマウリッツハイス美術館は、オランダのHAN応用科学大学との共同研究によって鑑賞が心だけでなく血圧などの体の症状の改善にも有効であることを発見しました。

福島県立医科大学では今回の展覧会において、マウリッツハイスの研究などを元に、独自の研究分野を応用して、鑑賞時の自律神経機能評価や血中のオキシトシンなどのホルモンの変化を調べます。これらを通じ、福島県立医科大学は、日本で最初となる、絵画鑑賞や展示の枠を超えたアートセラピーのさらなる臨床医学発展を目指します。